



つながり つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和6年3月15日

第36号

江別市教育委員会

総務課・学校教育課

子どもたちの入学に向けて小中で力を合わせる ～中央中学校区の生徒指導交流と2回目の中学校登校～

中央中学校区では、日常の授業時間の子どもたちの様子を参観し、生徒指導に関わる実態交流を行う「生徒指導交流」を実施しています。今年度は6月に1回目が行われ、2回目が、2月13日（火）に対雁小で、15日（木）に中央小で行われました。授業参観は算数科で、子どもたち同士の教え合いや対話が行われている様子を中学校の先生方に観てもらいました。小学校の授業形態や授業方法を中学校の先生方が共有したり、入学後の子どもたちの支援の仕方や既に卒業している中学2、3年生の子どもたちの活躍の様子等について交流したりして、有意義な話し合いが行われました。

中央中学校区では、小中一貫教育の取組が進められるようになってから、小学校と中学校の先生の交流が一層活発になっています。

また、中央中学校区では、2月19日（月）に中央小の6年生2クラス、27日（火）に対雁小の6年生3クラスが今年度2回目の中学校登校を行いました。

子どもたちは朝から中学校へ登校して、朝読書や朝の会を体験し、中学校の先生による授業を受け、入学説明会にも参加しました。1時間目はクラスごとに国語科の「ことばのきまり」、数学科の「17段目の秘密」、英語科の「コミュニケーション活動と英語クイズ」、体育科の「体づくり」の授業等が行われました。どの授業も子どもたち同士の「対話的な学び」が取り入れられており、中学校区の目指す子ども像やサブ目標である「協働的な学びや活動の重視」が意識された内容でした。2つの小学校においても、普段から「対話的な学び」が取り入れられており、小中で同じような授業改善が進められています。今回の授業も友達と積極的に対話し、笑顔で交流し合う子どもたちの姿がたくさん見られました。

2時間目は、11グループに分かれて中学1年生と小学6年生が合同で「総合的な学習の時間」の授業を行いました。中学生が制作した中央中を紹介するスライドや動画を小学生が見て、クイズに答えていく学習でした。スライド等の内容は、中央中の1年の流れや主な行事の様子、部活動の紹介、テストや家庭学習で大事なこと、先生方のこと等、多岐にわたります。6年



授業を参観する中央中の先生方



中央小での生徒指導交流



英語科の体験授業（対雁小）



数学科の体験授業（中央小）

生の子どもたちは、中学生の発表を興味深く聴き、感想をタブレットに入力する等して学習の振り返りを行っていきました。

3時間目は「新入生入学説明会」に参加し、担当の先生から中学校の学習や生活についての説明を受けました。中央中では、生徒会を中心に生徒自らが、「校則はなぜ必要なのか」や「どんな校則が必要なのか」等について考え、先生方と一緒に校則を見直す取組を毎年行っています。6年生の子どもたちはとても関心を持って説明を聴いていました。

今回の中学校登校は、約1ヶ月後に始まる中学校生活への具体的なイメージを持ち、入学への期待を高めることにつながったことと思います。



国語科の体験授業（中央小）



体育科の体験授業（対雁小）



中学1年生の中学校紹介



新入生入学説明会

北海道情報大学と連携した取組 プログラミング学習

～地域リソースを活用した授業…野幌中学校区の小小連携～

野幌中学校区の3つの小学校（野幌小、東野幌小、野幌若葉小）で、北海道情報大学の先生と学生の方々を講師としたプログラミング学習が行われました。

3, 4年生では、「マイクロビット」という教材を使って車を動かすプログラミングの体験を行い、5, 6年生では、ドローンを飛ばすプログラミングの体験を行いました。子どもたちは、大学の先生の話聴きながら、コンピュータに次々とコマンドを打ち込んでいき、最後に車やドローンがプログラム通りに動く様子を見て、大きな達成感を味わいました。

この取組は、野幌若葉小が以前から実施していた授業を小中一貫教育の「小小連携」の観点から他の小学校でも同じように進めることになったものです。

3つの小学校で同じような体験学習を進めることによって、中学校に向けた学びの標準化を図ることができます。



東野幌小3年生の様子



野幌若葉小6年生の様子



車を動かすためのプログラミング



野幌小4～6年生でのプログラミング学習の様子



野幌若葉小4年生の様子